

廃棄物処理対策研究事業 中間評価 評価結果

研究課題名	代表研究者	総合評価	学術的 必要性	社会的 必要性	目標の 達成度	計画の 妥当性	継続 能力	補助の 必要性
地域資源循環に係る環境会計表の作成とその適用	名古屋大学 井村 秀文	56.0	57.5	51.9	51.5	54.9	58.1	59.5
(研究概要) 研究概要及びこれまでに得られた研究成果を400字以内で記入 地域の資源循環と自治体の一般廃棄物処理事業に焦点を当てた環境会計の確立を目的として、整備すべきデータ項目を同定し、地域の物質フローとそれに付随した金銭フローを体系的に表現できるような環境会計表の枠組みを開発するとともに、具体的な市を対象に実際にデータを収集し、その実行可能性と有効性を評価している。平成16年度では、マクロ、メゾ、ミクロの各レベルでの資源循環とそのコストを表現するための環境会計の枠組みを提示するとともに、これを名古屋市及び北九州市に適用して、具体的な数値データを得た。その精度・信頼性向上や結果の意味解釈や利用法についてはさらに分析が必要である。容器包装リサイクル法や家電リサイクル法の施行にともなう費用、自治体の廃棄物収集と物質フローとの関係についてのデータも収集しており、これらの数値も環境会計表の体系に組み込み、国や自治体の政策評価に役立てることとしたい。								
(評価コメント) ● フレームもしっかりしている。ぜひ実用化してほしい。 ● 廃棄物政策の立案上、有益な研究である。 ● 最終処分場を資産としてどのように評価し、環境会計の中に取り組んでいくのか。時間軸の長い研究であり、跡地利用のやり方によってコストが大きく変わってくるはず。 ● 個々に豊富な内容を含む非常に多方面にわたった調査が行われているので成果は大きいですが、逆に色々なことを盛りこみすぎて焦点がはっきりしないという点もある。 ● 最終処分場の評価が課題と思われる。 ● 会計表を自治体の意志決定にどう反映して行うとしているのでしょうか。								

注1) 総合評価等の数値は偏差値である。

注2) 評価コメントについては、研究課題代表者が、総合評価を評価者全体の評価結果として捉えた上で、すべての評価コメントの反映を目指すのではなく、各コメントの中で今後活かすべき重要な指摘や示唆が何かを吟味・判断の上、今後の研究計画の見直し等に活用することを期待する。